



新見市男女共同参画情報紙

りぼん

vol.29
2020.2

ボランティア

さんかく
参画に

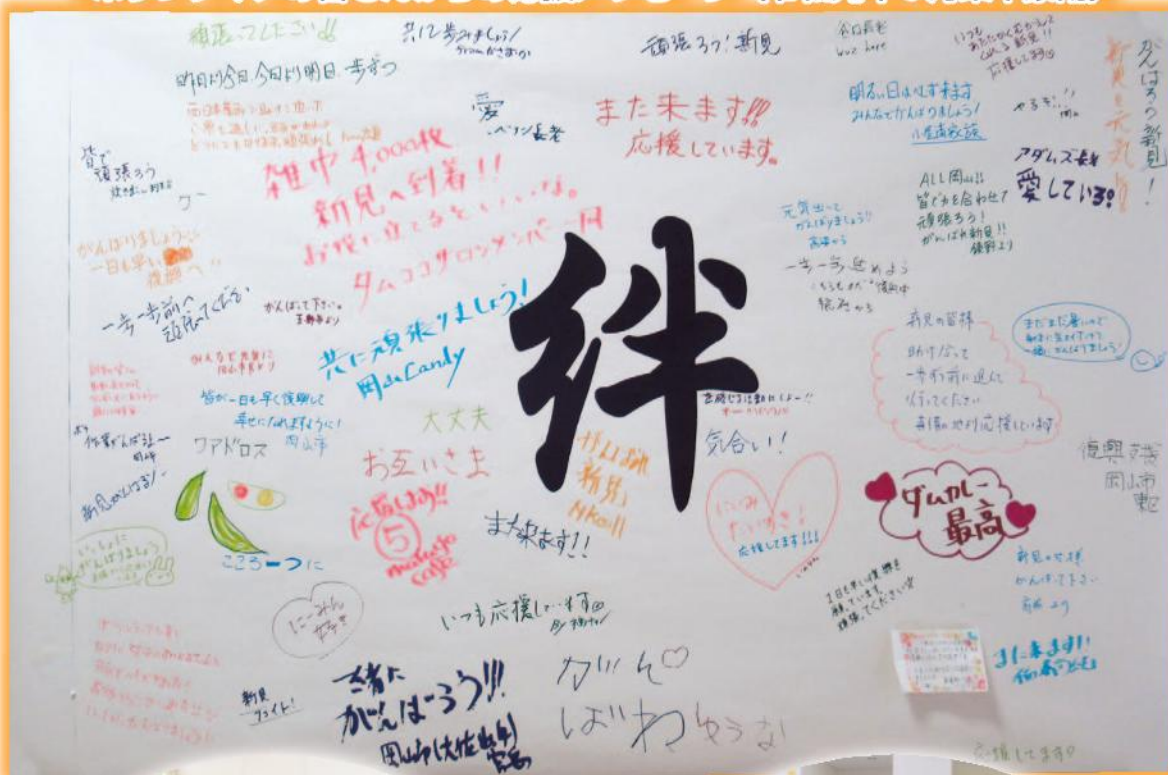
しかく
資格は要らぬ

こかく
みな互角



今回の『りぼん』は災害ボランティアにスポットをあててみました。ボランティアにはさまざまな活動があり、性別や年齢に関係なく参加できます。自分にできることから始めてみませんか？

ボランティアの皆さんからの応援メッセージ（令和元年9月集中豪雨）



ありがとう
いただきます



お疲れ様です



どれも
おいそつだなあ

今回は、全国各地で災害ボランティア活動をされている新見市在住の大森さんにお話を伺いました。



おおもり かつし
大森功資さん

ボランティアをはじめたきっかけは？

平成10年10月、牛の「元氣くん」が約90キロ先の瀬戸内海まで流された柵原豪雨で、祖父母宅が被災しました。片付けに行こうと思っていたら、すでにボランティアの皆さんが片付けをしてくれたと聞き、その時初めてボランティアの存在を知りました。

最初にボランティアに参加したのは、平成21年8月、美作市や兵庫県作用町で発生した台風第9号による集中豪雨でした。その時はニュースを見て「ボランティアが不足しているんだ、時間があるから行ってみようかな」と参加しました。

その後も活動を続けられていますか？

自分の祖父母宅のことがあって「恩返しをしたい」という思いで、ボランティアを続けています。山口や京都などへ行き、そうしているうちに東日本大震災が発生しました。宮城に行こうとSNSに「行ってきます」と投稿したら、知人も賛同してくれて、一緒に行くことになりました。被災地へ行けば地元の人と顔見知りになり、また支援団体の皆さんとも知り合いになり、今では多くの繋がりができました。

新見市で発生した9月集中豪雨の時はいかがでしたか？

「今回は俺たちが助ける番だから何でも言ってくれ」「今度は俺たちに任せてくれ」と宮城の仲間からたくさんさんの連絡が入りました。ボランティアセンターが立ち上がった最初の週末、ボランティア参加者の中に、真備で見かけた顔がたくさんありました。真備の人たちがお世話になったからと駆けつけてくれました。

恩返しにと新見に来てくださった皆さんが、ボランティアとして

現場に入り、被災された方といういろいろなお話をしてくださいました。「私はこんなことに困った」「こんなときはこうしたらいいよ」と身をもって経験しているからこそその確かなアドバイスがありがたいと思います。



たくさんの方が応援に駆けつけてくれました

ボランティア活動を通じて感じたことは？

被災地に行くと、よく耳にする言葉があります。「災害で失ったものはたくさんある、でもそれ以上で得たものもたくさんある」とそれが人との繋がりでです。被災された人と私たちは普通では出会わなかったかもしれない。でも知り合うことのなかったらどう人たちと出会い、そこで絆が生まれる。

何ものにも代えがたいことだと思っています。

被災直後、多くの人はボランティアの存在を知らず必死に片付けをされています。ボランティアが来てくれることを知っていてほしい、それが少しでも被災された皆さんの心の安らぎに繋がればと思っています。



大森さんとの座談会の様子

ひと言

大森さんの「多くの人はボランティアの存在を知らず、必死に片付けをされています」という印象的な言葉。たとえ腕力は無くても被災された方に寄り添って、少しずつ掃除や片付けを手伝うだけでも、どれほど心の支えになることか：大切なことだと思います。

(編集委員 谷岡奈央)

「災害ボランティアに参加したい!」とは思ってけど…何をどうしたらいいの?」

Q ボランティアに行きたいと思う
たら、まず何をしたらいいの?

A 災害がおきたら、「災害ボラ
ンティアセンター」が立ち上
がります。その地域の「社会福祉
協議会」のホームページで、まず
はボランティア募集の情報を確認
してください。事前登録が必要だ
ったり「県内の人が対象」など、募
集エリアに制限がある場合もあり
ます。せっかくだら行つたのに…と
ならないように事前にチェックを
しましょう!

Q 力仕事に自信がありません。
そんな私でもボランティアに
参加していいですか?

A もちろんOKです!現場に行
く前に「オリエンテーション」
があって、作業や行き先を決
める「マッチング」をします。
重たい土砂の撤去には自信がな
くても、床ふきや食器出しなど、
細やかな作業もあります。女性や
体力に自信がない人でも大丈夫で
す。外の作業ばかりではなく、セ
ンター内での仕事もありますので
気軽に参加してください。



マッチングをしている様子です

Q ボランティアに行くときの
準備物は?

A 現場に入るときには自己完結
型!食事や飲み物は自分で準
備します。作業しやすい服装、長
靴、マスク、帽子など必要です
が、「ボランティアに行くため!」

これで
完ペキ



出典：水害ボランティア作業マニュアル (特定非営利活動法人レスキューストックヤード)

ということではなく、「もしもの
ときに備えて」という防災の観点
からもご家庭で準備しておくの
いいかもしれませんね。

Q 「ボランティア保険」って
なんですか?

A ボランティアに参加すると
きには「ボランティア活動保
険」に加入します。活動中のケガ

などに対応するためです。保険料
は基本タイプで350円です(令
和元年度)。未加入の人は、当日
ボランティアセンターで申込がで
きる場合もあります。補償期間は、
手続きをした年度末(3月末)ま
で、期間中であれば別の場所
での活動も補償されます。詳しくは
新見市社会福祉協議会(☎073
06)にお問合せください。

ボランティアに参加しよう

まずは

情報収集をしよう！

- ・テレビ、新聞、SNSなどを活用し最新の情報を入手
- ・ボランティアの募集状況の確認



次に準備をしよう！

- ・ボランティア活動保険への加入
- ・食べ物、飲み物などの準備



そして参加しよう！



参加者全員が無事に帰ってくるのが一番です。無理をせず自分のペースで活動しましょう！

写真洗浄ボランティアに参加して



9月3日、多くの家屋や家財が泥にまみれ、多くの人が途方に暮れておられました。泥にまみれた家財などが運び出される中に、写真やアルバムがありました。汚れた写真たちには、その一枚一枚に家族の思い出が詰まっています。ただの紙切れとは違う一枚の写真。それらの写真を一枚一枚丁寧に、きれいに洗い、そして腐食を防ぐためにエタノールで拭いていくのが写真洗浄作業です。

写真洗浄のボランティアに参加してみ、一枚一枚の写真を丁寧に拭いていくうちに、被災したご家族を思う気持ちが湧いてくると同時に、その思い出たちが、まるで我がことのように思えてきました。そして、思い出というものが、いかに生きて行くエネルギーになるかを改めて知ったボランティアでした。

(編集委員 小川政保)

一步を踏み出す
きっかけになれば



私は災害ボランティアに参加したことがなく、それなりの知識や技術のある人が参加する難しいものだと思っていました。そもそもどのように情報を入手し、どんな方法で参加するのかもわかりませんでした。今回の取材で「自分の知りたかったこと」を教えてください、以前までの災害ボランティアに対するハードルがグッと低くなったと思います。また、日ごろからの「声掛け」も大切だと感じました。いざ災害に直面したとき、見ず知らずの人をすぐさま助けに行ける人は多くないと思います。例えば、近所の人に日ごろから声を掛けていけばその人は「知人」になり、いざというとき、手を伸ばしやすくなるのではないのでしょうか。ボランティアに参加したいけど躊躇している、そんな人はまず「声を掛ける」ということから始めてみませんか。

(編集委員 磯田由佳)

編集後記

編集委員 石田辰彦

りぼん第29号より編集委員長をさせていただきます石田辰彦です。どうぞよろしくお願いたします。

さて今回は災害ボランティアをテーマにさまざまな情報を収集し編集させていただきました。「災害ボランティア」と聞くと、何日間も現地で働き、車で寝泊まりし、ちよつと敷居が高そうな大変なイメージがありました。そんなイメージを持っていた私自身、令和元年9月の災害で、初めてボランティアに1日だけですが参加させていただきました。社会福祉協議会様が中心となり、ボランティアに対し、さまざまなサポートをしてくださいました。そのおかげで思っていた以上に参加しやすかったです。ボランティアにはさまざまな役割があるため、体力に自信のない人でも何かしらできることがあります。「参加してみたいけど…」という人が今回のりぼんを読んでボランティア参加へ一步を踏み出していただければ幸いです。